営農再開実証技術情報

秋冬ブロッコリーの前作として栽培する
緑肥作物セスバニアは５月播種が適する（双葉町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事　業　名　営農再開支援事業
小 事 業 名　営農再開に向けた作付･飼養実証
研究課題名　緑肥作物セスバニアの播種時期
担　当　者　平山孝、前田慧

Ⅰ　新技術の解説

1　要旨

マメ科作物セスバニアは排水性の悪い土壌でも十分な生育が見込めるため、除染後農地における土壌改良効果が期待できる。東北南部におけるセスバニアの播種適期は６～７月であるが、双葉町の主要作物である秋冬ブロッコリーの前作として作付けし、定植１か月前の７月下旬にすき込む場合は５月播種が適する。

（１）双葉町の地力の低い除染後農地において、セスバニア「田助」を 2024 年 4 月 23 日、5 月 16 日、6 月 13 日に 10a 当たり 5kg 散播したところ、播種時期が早いほど草丈は高い状態で推移した。
（２）すき込み時期（7 月下旬）において 4 月播種と 5 月播種で草丈に大きな差は見られず、6 月播種では播種後の少雨で初期生育が抑制され、4 月播種の半分程度であった（図１、２）。
（３）すき込み時期におけるセスバニアの乾物重は 5 月播種で最大となった。雑草の混入割合は 4 月で 55％、5 月で 46％であり、雑草を加えた全窒素量では 5 月播種で最大となった（表 1）。

2　期待される効果

（１）排水性の悪い除染後農地においても、窒素 5kg/10a 程度（すき込まれる全窒素量の半分程度）の減肥効果が期待される。

3　活用上の留意点

（１）初めてセスバニアを栽培するほ場では、根粒菌資材を使用して生育を確保する必要がある。
（２）種子代（根粒菌資材同梱）は、10a 当たり約 11,200 円（2024 年 4 月時点）である。

II　具体的データ等

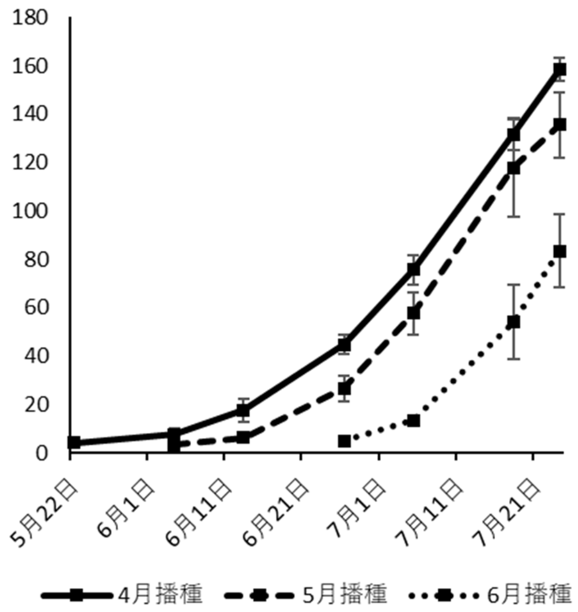

図１　セスバニアの草丈(cm)

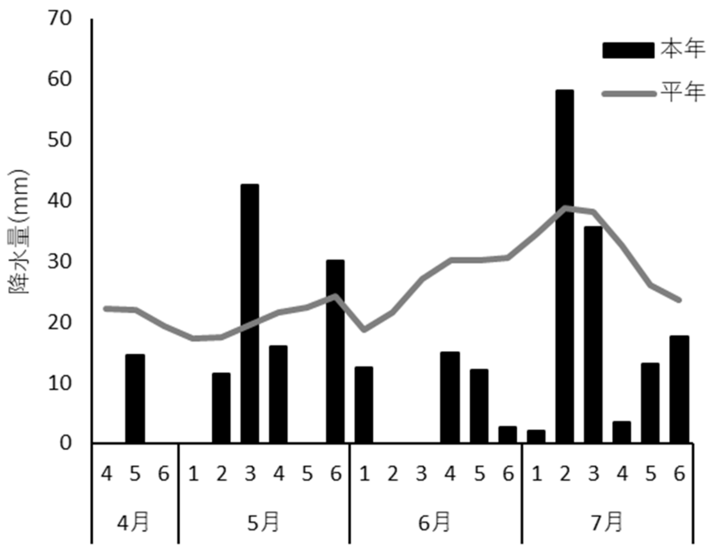

図２　生育期間中の降雨量（アメダス浪江）

表１　セスバニアと雑草の窒素すき込み量（7 月 24 日）

	セスバニア		雑草			すき込まれる
	乾物重 (kg/10a)	全窒素量① (kg/10a)	乾物重 (kg/10a)	全窒素量② (kg/10a)	雑草重 量比(%)	全窒素量 (kg/10a)
4 月播種	290	6.8	342	2.9	55.2	9.7
5 月播種	368	7.8	255	3.5	46.0	11.3
6 月播種	208	6.2	58	1.5	28.1	7.7

注　すき込まれる全窒素量は①＋②

III　その他

1　執筆者

平山孝

2　実施期間

令和 6 年度

3　主な参考文献・資料

（1）平成 28 年度営農再開実証技術情報「排水不良の除染後農地では、地力増進作物としてセスバニアが適する（双葉町）」

（2）令和 5 年度営農再開実証技術情報「降水後の湛水が長期間続く農地でも、緑肥作物セスバニアにより有機物の供給が期待できる（双葉町）」